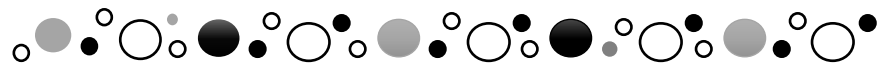




2025 年度

家庭教育支援事業の記録



杉並区教育委員会事務局

学校支援課 家庭・地域教育担当

2025（令和7）年度の家庭教育支援事業

開催回/団体名	テーマ	講師	開催日	人数
家庭教育講座（教育委員会主催）				
第1回	親子の“新しい”コミュニケーション ～色育を体験してみよう～	一般社団法人日本色育推進会 代表 志田 悦子	10月4日	23
第2回	ネットトラブルから子どもを守る！ ～保護者が知っておくべきこと～	一般社団法人刑事事象解析研究所 代表理事 森 雅人	11月5日	11
第3回	ペアレントプログラム 「親と子の関係を育てるコミュニケーションを学ぶ」	臨床発達心理士 山川 玲子・村瀬 みどり	1月12日	27
家庭教育講座（地域団体主催・教育委員会共催）				
こどもの成長を護る 杉並ネットワーク	不登校の子どもの気持ちに寄りそえますか？ ～子どもの個性を捉える(第1回)	東洋大学総合情報学部 名誉教授 BUNTE KISTE 主宰 石原次郎	7月26日	20
	不登校の子どもの気持ちに寄りそえますか？ ～続・子どもの個性を捉える(第2回)		1月24日	34
ミモザの花～子どもの不登校を考える会	不登校に関する情報交換会 不登校の子どもの進学について	通信制高校サポート校 コスモ高等部 NPO法人文化学習協同ネットワーク 藤井 智	10月25日	29
ゴードンメソッド 「親業」@すぎなみ	子どもの自立と自律を育むコミュニケーション講座（第1回） 子どもがやる気になる聞き方・話し方	親業訓練インストラクター 保田 玲子	11月8日	17
	子どもの自立と自律を育むコミュニケーション講座（第2回） 揺れる思春期の子どもの支え方	親業訓練インストラクター 加藤 規子	11月9日	19
ファミリーード(親子の学びを応援するひろば)	その渡し方で変わる！自分軸を育むおこづかいと声掛けのコツ ～受験も就活も「自分で選べる力」からはじまる	ファイナンシャル・プランナー 前田 菜穂子・亀谷 さおり	2月26日	5
家庭教育フォーラム				
働く保護者の学び合いの場をつくるためには		東京学芸大学総合教育科学系 柴田 彩千子	2月13日	33

親子の“新しい”コミュニケーション

～色育を体験してみよう～



日時：令和7年10月4日（土）10:00～12:00

会場：区役所第4会議室

参加人数：23名

講師：一般社団法人日本色育推進会代表 志田 悦子

色との出会いは1998年春頃。当時専業主婦であった講師は幼い3人の子どもが寝静まる夜に独学で色彩検定三級の勉強を始める。

学ぶにつれ親子のコミュニケーションに色が役立つことを実感し「色育®」を発案。一念発起し2008年から“色で生きる力を育む”色育講座を自宅教室で始め、その後出会った多くの方に背中を押され2012年に法人化し代表となる。

●内容●

「色育とは?」「色でできることはなんだろう」といったテーマを入口に、家庭で今日から簡単に取り入れられる「色育」を体験しながら学ぶことができる未就学児の保護者を対象とした講座を開催しました。自身の子育ての経験も交えたお話は、子育てに悩む参加者の気持ちに寄り添い、会場があたたかい雰囲気で包まれました。

言葉で伝えることが難しい幼い子どもでも、感覚（色）でなら選んで気持ちを伝えることができる。それに対して大人は色に正解、不正解を探さず、まずは傾聴し「待つ・寄り添う・受け容れる」ことが重要であることなど、子どもとのコミュニケーションのヒントを多く得ることができました。

●参加者の声●

- ・「子育てのゴール」「生きる力」について、毎日を過ごすことに目がいき、「何のために」を考えていられていなかったのが、とてもいい機会になりました。
- ・お絵描きでコミュニケーションを子どもと取ることはありましたが、色を使うのは簡単で取り入れやすいと思いました。1日に1度、わずかな時間でも色と向き合えると親子ともに良い関係が築けると感じました。
- ・自分軸の考え方や、色で気持ちを表現する方法など、とても参考になりました。
- ・色で感情を表現する体験ができてよかったです。色をキーに子どもと見つめ合う気持ちを再認識することができました。

ネットトラブルから子どもを守る！

～保護者が知っておくべきこと～



日時：令和7年11月5日（水）19:00～20:30

会場：オンライン（Teams）

参加人数：11名

講師：一般社団法人 刑事事象解析研究所 代表理事 森 雅人

警察の元警部補。サイバー犯罪、経済犯罪等を扱う生活安全部門の刑事を約15年担当。2024年、刑事事象解析研究所（ケイジケン）を設立。「進化する犯罪…その先へ。」をコンセプトに、最新犯罪を解析し、より実践的な防犯対策に関する研究・情報発信を行っている。

●内容●

近年、闇バイトやオンラインゲームでのトラブル、SNSを通じたいじめなど、子どもたちが巻き込まれる犯罪が社会問題となっています。本講座では、実際に発生した事件を事例として取り上げ、子どもを犯罪から守るために保護者が意識すべきことや、家庭でのルールづくりの参考となる情報を提供しました。

講座はオンラインで開催されましたが、参加者が自分ごととして捉えられるよう、スライドに写真を多く取り入れながら、各事件の概要、刑事の対応、保護者の果たした役割について、事件ごとに分かりやすく説明がありました。また、事件の紹介にとどまらず、スマートフォンを初めて持たせる際に注意すべき点や段階的に使用を始めることでネットと現実の区別を徐々に身につけさせる方法など、すぐに実践できるアドバイスも紹介されました。

本講座を通して、事件を未然に防ぐためには、子どもがスマートフォンを片時も離さない様子や、明らかに睡眠不足になっている様子などの異変に気づける家庭環境を整えていくことの重要性、そして保護者が子どもに関心を持ち続けることが、子どもを守ることに繋がるといった認識を深めることができました。

●参加者の声●

- ・オンラインゲームの危険性を知ることができ学びになりました。
- ・経験に基づいたお話しで、説得力がありました。
- ・具体的な事件現場の事例を踏まえてのお話だったので、なんとなく理解していたことのリアリティある恐ろしさを知ることができました。
- ・スマートフォンを与える上での、認識揃えなど具体的なことも教えていただいたことで、ただ恐れるだけではなく、実態にあわせた対応を考える起点になりました。

ペアレントプログラム

親と子の関係を育てるコミュニケーションを学ぶ

日時：令和8年1月12日（月）14:00～16:00	
会場：杉並区立桃井第二小学校 開放会議室	参加人数：27名
講師：臨床発達心理士 山川 玲子、村瀬 みどり	
協力：一般社団法人 FLEXIBLE 保健師・臨床心理士・社会福祉士など、自治体の現場で豊かな経験を持つ専門職によって設立された団体。	



●内容●

本講座では、親子の関係を育てることを目的に、「しつけ」の本来の意味を確認し、アタッチメント理論や脳科学の視点から子どもの発達と親子関係の基礎を学びました。

ロールプレイを通して、子どもに気持ちが伝わる声かけや、つい言ってしまう否定的な言葉を肯定的な言葉に置き換える方法を体験しました。講師は保護者に寄り添いながら、イライラしてしまう原因や、その感情が子どもにどう伝わるかを、分かりやすく丁寧に説明しました。参加者は安心して話を聞き、実践的な方法を学ぶことができました。

●参加者の声●

- ・しつけの定義が変わりました。これまで厳しく接していました。脳の発達にからめた言葉かけ、関わりがよく分かりました。もう我が子が大きいので、放っておけると思っていたのですが、脳の発達からするとまだまだ大事な時期なのだと気づかされました。
- ・見たまを伝える“実況中継”はすぐに出来そうな手立てで、大変学びになりました。子どもの肯定感のみならず、大人の肯定感もあがるのが良いと思いました。
- ・あいまいな言葉は子どもには伝わらないことや、否定的な言葉を使わず肯定的な言葉を使うということの大切さに気付きました。怒らないようにして、できたことを認める、褒める声かけを多くして子どもとの関係を良くしていきたいです。
- ・子育ては互いに育ち合うのだと感じました。親が子どもを育てないといけないという思いが強かったですが、一緒に育っていきたいと思いました。息抜きしながら心の余裕を図りながら子育てしていきたいです。

不登校の子どもの気持ちに寄り添えますか？

主催団体名：こどもの成長を護る杉並ネットワーク

	第1回	第2回
テーマ	子どもの個性を捉える	
開催日	令和7年7月26日（土）	令和8年1月24日（土）
会場	永福和泉地域区民センター 第1・2・3集会室	
参加人数	20名	34名
講師	東洋大学総合情報学部名誉教授 BUNTE KISTE 主宰 石原 次郎	

不登校の子どもの心とどう向き合っていくのか、「子どもの個性を捉える」をキーワードにしながら、それぞれの特性や個性を捉えて、子どもがのびのびとより少ないストレスで暮らせるようになるか考えていきました。

●参加者の声●

- ・子どもの個性を認める話が聞いてよかったです。
- ・自分には全くない視点で子どもの個性の話を聞いて、目からウロコが落ちびっくりしました。
- ・不登校は問題ないという言葉が初めの頃に出会いたかったです。
- ・共感的な存在、子どもに安心を与えられる存在になりたいと強く思いました。



不登校に関する情報交換会

主催団体名：ミモザの花～子どもの不登校を考える会

テーマ	不登校の子どもの進学について
開催日	令和7年10月25日（土）
会場	杉並区役所第5・6会議室
参加人数	29名
講師	通信制高校サポート校コスモ高等部 NPO 法人文化学習協同ネットワーク 藤井 智 アドバイザー フリースクールフェルマータ代表 大橋 勲 元フリースクール教員 小泉 亘央

学校への短期的な適応で長い人生は決まらないことや、自分が人生の主体になることが大切といったお話をコスモ高等部に在籍していたお子さんたちの実例と共にしました。チャレンジスクール、エンカレッジスクール、夜間定時制高校、専門高校についての説明もあり、不登校経験者と講師を交えたグループ懇談も行いました。

●参加者の声●

- ・学校にこだわらなくても、子どもは成長することが分かり安心しました。
- ・不登校経験者の話が参考になりました。
- ・今はつらいけど、不登校経験者の姿を見て未来が見えた気がして、前向きになれました。

家庭教育講座（地域団体主催 教育委員会共催）

子どもの自立と自律を育てるコミュニケーション講座 主催団体名：ゴードンメソッド「親業」@すぎなみ

	第1回	第2回
テーマ	子どもがやる気になる聞き方・話し方	揺れる思春期の子どもの支え方
開催日	令和7年11月8日（土）	令和7年11月9日（日）
会場	阿佐谷地域区民センター第1・2・3集会室	
参加人数	17名	19名
講師	親業訓練インストラクター 保田 玲子	親業訓練インストラクター 加藤 規子

1回目は子どもが自主的に行動するための子どものやる気を育むコミュニケーションとして「聞き方」「話し方」の具体的な方法を学びました。2回目は子どもが不登校になった講師自身の体験を交えながら、愛情を伝える方法を学びました。

●参加者の声●

- ・悩んでいるのが自分一人ではないと分かり、気持ちが楽になりました。
- ・声のかけ方で自立心も育てていけるのが素晴らしいと思いました。
- ・自分が陥っている負のパターンを見直すきっかけになりました。
- ・グループディスカッションを通して、自分の考えを言葉にして理解を深めることができました。

その渡し方で変わる！自分軸を育むおこづかいと声かけのコツ

～受験も就活も「自分で選べる力」からはじまる

主催団体名：ファミリード（親子の学びを応援するひろば）

テーマ	おこづかいをきっかけとした子育ての工夫
開催日	令和8年2月26日（木）
会場	セシオン杉並 第6・7集会室
参加人数	5名
講師	ファイナンシャル・プランナー 前田菜穂子・亀谷さおり

おこづかいは、単に金銭感覚を養うだけでなく、子どもの自立を促し、親子のコミュニケーションを広げます。また、自分で選ぶ経験を通して、自分軸を育てるきっかけにもなります。おこづかいを家庭にどう取り入れるか考えました。

●参加者の声●

- ・おこづかいの最初の一步が分かりました。
- ・娘とお小遣いを通して、コミュニケーションを欠かさないようにしようと思いました。
- ・先生方のご家庭での実践事例や、最後の長め質問タイムで各ご家庭の話が出たりする中で、大変具体的にわかりやすい内容でした。

家庭教育フォーラム

働く保護者の学び合いの場をつくるためには



日時：令和8年2月13日（金）18:00～20:30

会場：区役所第4会議室

参加人数：33名

講師：東京学芸大学総合教育科学系 柴田 彩千子

子育て中の親の学びやコミュニティ・スクール・地域学校協働活動と地域づくりなどの視点から、子どもと大人が学びあう「地域の教育力」をいかにつくるかをテーマに、研究活動を行っている。

主な著書は、『地域の教育力を育てる』（単著、学文社、2014年）、『共生への学びの構築』（共著、東京大学出版会、2024年）など。

●内容●

区内で家庭教育や子育てに関わっている方または関心のある方を対象に、近年子育てしながら働く保護者が増える中、どのような支援ができるのか、共に考える「家庭教育フォーラム」を開催しました。

子育て中の保護者の学びを研究している講師による講義では、働く保護者のニーズや状況を、調査のデータを基に把握し、地域の教育力を育てるために必要なことについて考えました。後半のグループワークでは、前半の講義を踏まえて参加者同士で「保護者の学び合いの場をつくるために、支援者として私たちができることは何か」について共に考え、学び合いました。

●参加者の声●

- ・現状の保護者の実態や、学びの場の重要性とニーズを知ることができ、また他の方の活動を知ることにより地域の活動の重要性を感じました。
- ・子育ての当事者やその支援者の想いに触れて、子育ての大変さもある一方で、そのやりがいや楽しさもあることを実感できました。子育てに対する意識が広がりました。
- ・家庭教育に関して、地域の中でどのような人や団体企業が関わっているのかを知ることができました。
- ・柴田先生のお話から、保護者たちの意識を知ることができました。グループワークで皆さんの貴重な意見が聞けてありがたかったです。



保護者が、家庭や地域でより豊かに子育てをするためのヒントを伝える記事を、教育情報誌『なみすく』に掲載しています。

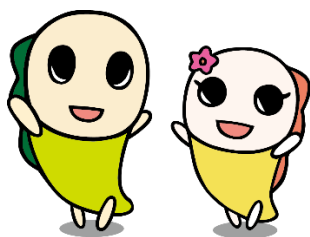
※『なみすく』は2026年最終号をもちまして発行を終了したため、「すぎふぁみ便り」もあわせて終了しました。

インクルーシブはなぜ大切？

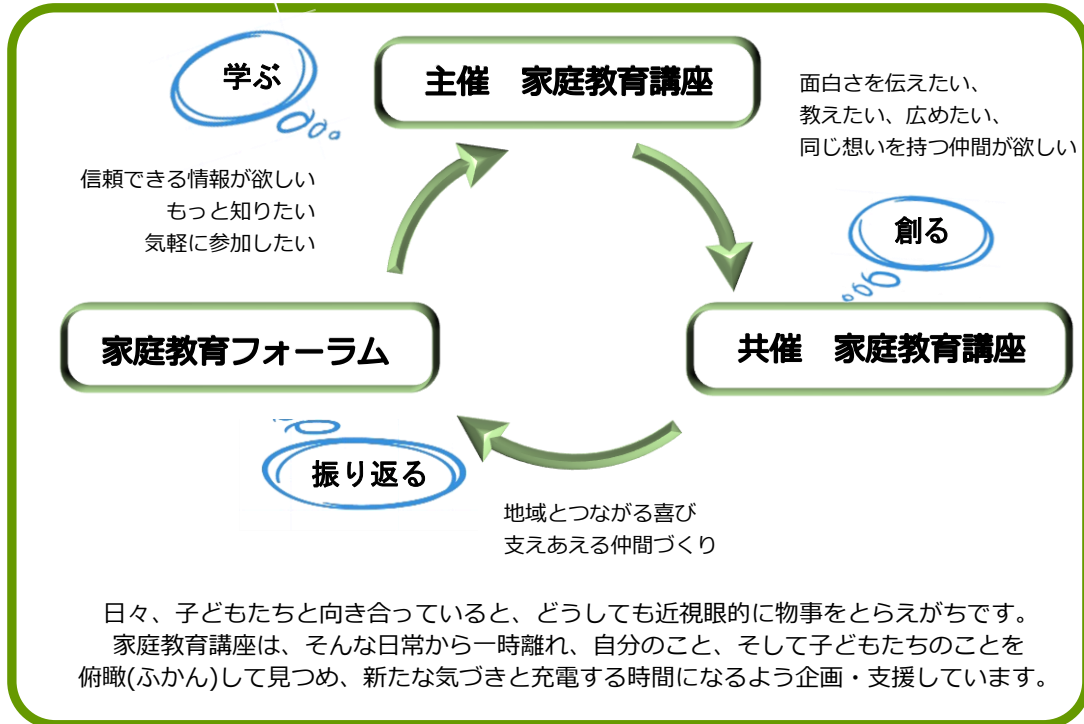
2025 夏号

インクルーシブ社会は、障害や違いを受け入れ、誰もが尊重される環境を目指します。教育現場では、特別支援教育と通常学級の連携が重要で、合理的配慮や個別支援を通じて学びの機会を保障します。多様性を認めることで、互いに理解し合い、共生社会の実現につながります。また、スマホ利用による子どものトラブル防止には、フィルタリングや家庭でのルールづくりが必要です。

(話：野口 晃菜さん)



杉並区教育委員会が提供する家庭教育支援プログラム



教育委員会では、「子育てについて新たな視点や気づきを得られる場」「仲間と思いを共有し、日々の活力を得られる場」として、**家庭教育講座を主催**しています。

また、子どもにかかわる大人たちが地域の中で自ら学びの場をつくろうと思ったとき、**教育委員会共催として家庭教育講座**を開催できるように支援をしています。

さらに、講座を主催する皆さんの学びと情報交換の場として、**家庭教育フォーラム**を開催してきました。

学びが循環し、地域で支えあえる関係を育めるような仕組み作りを行っています。

○あなたの声を聞かせてください○

今後の家庭教育講座企画の参考にさせていただきたく、皆さまのご意見を募集しております。

右のQRコードより、アンケートにご協力をお願いいたします。



2025年度 家庭教育支援事業の記録

令和8年 5月発行

編集・発行 杉並区教育委員会事務局 地域の学び推進課

地域・学校協働係

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号

TEL (03) 3312-2111

登録印刷物番号

08-0005

★杉並区のホームページでご覧になれます。<https://www.city.suginami.tokyo.jp>